

パンタナール通信

一般社団法人 南北米福地開発協会 会報 2021年10月1日 217号
世界平和地球村の建設と自然環境の保護



第21回国際協力青年奉仕隊（続報）



サッカー



塗装



壁画

子供たちのために、叶えられた夢！

本紙先号で第21回国際協力青年奉仕隊活動の第一報をお伝えしました。今号はその続報です。準備と実行に今回も尽力された佐野道准氏の報告から抜粋・編集したものです。

7月19日

8時からの開会式に、生徒、先生、父母、村の

有力者たちが集まりました。コロナ禍の故にあまり多くの人は集まりませんでしたが、主だった人は来てくれました。

オリンポからは校長先生も駆けつけてくれました（オリン

ポからマリア・アウシリアードーラまで110kmある）。村

の生徒たちはパラグアイの民族ダンスで歓迎してくれ、オリ

ンポの青年たちは歌を歌い、日本の青年たちはダンスと

「Eres Tu」の歌をスペイン語で披露してくれました。そ

して日本、オリンポ、エスペランサの青年たちが皆で「成

和青年歌（スペイン語）」をジェスチャー付きで披露しまし

た。この歌は今回の青年奉仕隊のテーママソングとしてオリ

ンポやエスペランサの青年たちも歌えるようになりました。

お昼からは本来子供たちと交流する時間だったのですが、

朝の式典があったので、午後は子供たちが登校しませんでした。またこの期間は震えるほど寒い日々でもありました。

でも青年たちは元気よく、近くの広場でサッカーやバレーボールに興じていました。

ここで問題はシャワーです。学校にシャワーがないと

ここで、近くのチャペルのシャワーを使うために簡易温

水器を取り付けたのですが、水圧が不足で、水がシャワー

器から出てこない状況でした。そこでどこか近所の家のシャ

ワーを借りられないかと交渉したのですが、驚いたことに、

この人々は誰も温水のシャワーの設備を持つていないと

のこと。仕方なく女性たちの使う分だけ、食当のグロリア

さんが家で水を温めてくれ、それをバケツに入れてシャワー

室に持つていいって体を洗つてもらいました。マリア・アウ

シリアドーラでの生活の問題点は、寒かつたことと、温か

いシャワーが浴びられないということだったと思います。

7月20日

とても寒い朝だったので、焚火をして暖まりました。

朝食後、学校食堂に壁画を描くグループ、校舎の壁塗り

部隊、そして校庭の清掃部隊に分かれて作業をしました。

壁塗りや清掃部隊は昼前に終わって、昼からは学校に来た

子供たちと交流することができ、きれいになつた校庭で縄

跳びやサッカーを楽しんでいました。（四面に続く）

レダ基地スナップ



帰国する高橋君を皆で見送る。船着き場にて、8月27日



レダで活動する青年たちが集合。公館前にて、8月20日



パクーの人工孵化のために、親魚を選別。8月24日



川久保君(左)からオニテナガエビの説明を受ける青年たち。8月18日



豚の顔を見つめる高橋君。今、子豚は83匹いる。8月18日



育てたカブと大根を手に、ヌワビシさん。美味しい煮物や漬物に。



スイカの芽が出ました～！と嬉しそうな大元氏。8月23日



弱っていた木に新芽(5年ぶり)が生えた！と喜ぶ北中氏。9月7日

持続可能な福地建設をめざして(4)

健康な生活と福祉の促進を

和田賢一

3 すべての人に健康と福祉を



464万人に達しています。(本年9月14日現在)

わが国の累積感染者数は約165万人で、これまで約1万6900人の方々が亡くなられました。退院された方は151万人です。(本年9月14日現在)

新型コロナウイルスの猛威は留まることなく、デルタ株に置き換わってからさらに急激に蔓延し、入院できずくに10万人以上が自宅療養し、容体の急変によって亡くなられている人もいます。

政府は感染予防策とワクチン接種の拡大によって、食い止めようとしていますが、まだ解決の確かな道筋はみえていません。

健康に関連するSDGsはゴール3で、「あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する」としています。コロナ禍で私たちは、この項目の意味の重要性を改めて実感しています。このゴール3のターゲットは9項目あります。要約すると次のようにあります。

●2030年までに、世界の妊婦の死亡率を削減し、新生児の死亡率も低下させる。

●エイズ、結核、マラリアなどの感染症に対処する。

●非感染症疾患による若年死亡率を予防や治療により3分の1減少させる。

●薬物乱用、アルコールの有害な摂取を含む、物質乱用の防止・治療を強化する。

●世界の道路交通事故による死傷者を半減させる。

●家族計画など健康促進などの計画を推し進める。

●すべての人人が基礎的な健康サービスを受けられ、安価な医薬品、ワクチンを受けられるようになります。

●有害化学物質による大気、水質、土壤などへの汚染による死亡、疾病件数を大幅に削減する。

これらの項目を見ると、人類の健康上の問題点を

歴史的に人類は、健康な生活を送り続けるために、さまざまな疾病との闘いを繰り返してきました。具体的には病気の解明と治療法の開発や、病気の原因の根絶をめざしてきたのでした。世界的に脅威を与える疾病的発生のたびに、何万人という人命が失われていく現実に立ち向かってきた医療従事者の姿に頭が下がる思いになります。

今回のコロナ禍によつて、私たちは通常の生活ができなくなりました。ここで、改めて普段の生活の尊さを知りました。コロナ禍で諸活動の不自由さを余儀なくされたことは言うまでもありませんが、感染防止のためにマスク着用などの生活習慣の変化によって、より健全な生活を送ることができるようになつたことも事実でしよう。

インドでは、手で食事を取るのが通常なのですが、食前に手を洗うことが常識になりつつあるとのニュースを聞きました。また日本製の爪切りがヒット商品になつているとも伝えられています。生活習慣の改めました。インドは約44万人余りのコロナ死亡者を出しています。生活習慣の改善に、大きな代償を支払つたといえましょう。

しかし、個人や家族の生活の改善だけでは、健全な社会をつくることはできません。コロナ感染症克服を例に取ると、ワクチン接種と治療薬開発だけでは、解決できないというのが識者の見解です。

SDGsの観点から分析すると、多くの分野との関連を重視しなければならないことがわかります。

新型コロナの健康危険因子の把握と警告は今まで

もありません。さらに肥満など個々人の基礎疾患への取り組み、定期的な健康診断、たばこやその他の薬物の排除。そして、社会的な視点による衛生的な水へのアクセス、下水処理の完全実施。家庭医制度の普及、専門病院の特化、健康保険制度の完備。要是、個人と社会制度の密接な関わりなくしては、でききないということです。



心身共に元気いっぱい。

さて個人の健康を考え上で、一つの「格言」を引用してみましょう。「健全な精神は健全な肉体に宿る。」身体が健全なら精神も健康であるという意味らしいです。果たしてそのうでしようか? 原典は古代ローマの詩人・ユウェナリスの言葉です。彼は社会の矛盾を痛烈に批判した著作「風刺詩集」の中で、「健やかな身体に健やかな魂が願われるべきである」と語つてゐるのです。彼は弁護人でもあつたために、人間のさまざまなかつた。そこで彼は人生の在り方を、「健全な肉体を活かすべきは、健全な精神を具現化するための行為ではないのか」と語り、世に問うたのです。

さて私たちは、自身の健康を保持する意味は、「健全な精神が健全な身体をつくり、健全な身体は健全な社会を造り出すためにある」と考えることもできましよう。(つづく)

